

新しい寮が完成、学生の新寮での生活が始まる

農業大学校は、実践学習と全寮制という教育を一貫して行ってきました。昭和53年に建築された先代「拓心寮」では、相部屋制度を採用し、通算1,900名の卒業生が寝食をともにしました。

新しい「拓心寮」は、森林資源が豊富な最上地方の特徴を活かした木造建物で、内装やデザインからは木材の良さや木の温もりを実感できます。また、寮内の暖房給湯のため、燃料として地域内の間伐材を利用したチップボイラーが稼働しています。

4月に、1年生と2年生の2人相部屋で新しい寮での生活をスタートしました。7月には部屋替えを行い、同学年の相部屋も増え、生涯の思い出となるであろう生活を送っています。



オープンキャンパスを開催

― 新設予定の林業関係学科に注目 ―

農業大学校では、毎年、次年度の学生募集に向けて、入校を希望する高校生及び保護者らを対象としたオープンキャンパスを開催しています。

本年度は3回開催しており、これまでの開催状況は、1回目の7月4日は38名、2回目の8月1日は55名、3回目の8月30日は33名の高校生の参加がありました。

オープンキャンパスでは、例年、学校施設の見学や教育内容・入校案内の説明、学科別のガイダンスが行われ、農業大学校への理解を深めてもらっています。本年度は、来年4月に設置が予定されている林業関係学科が目玉であることから、1回目のオープンキャンパスでは高性能林業機械による木の「枝払い」と丸太を作る「玉切り」のデモを行い、参加者全員が見学しました。また、昼食後には、林業関係学科に関心のある生徒・保護者を集め、就職先等の説明を行いました。県内での就職の見込み等の質問があり、保護者の注目を集めていました。



林業関係学科新設に向けた動き

平成28年4月に県立農業大学校に設置予定の林業関係学科(仮称)を検討する、「山形県立農業大学校林業関係学科設置に関する検討会(第2回)」が山形市で7月30日に開催されました。

事務局から、学科の基本構想素案としては、「森林・林業に関する専門知識と技術を有し、地域の森林経営を長期的な視点でプランニングできる人材の育成を目指すこと」、具体的なカリキュラム素案としては、森林・林業の「川上から川下」までを学ぶ内容として、「森林の仕組みや役割」「伐採・植林等の現場での林業技術と知識」

「木材加工、木材の利用先となる建築」「山村振興」「林業機械の操作」「現場での救急法」などの内容が示されました。また、林業関係機関からは、「実践教育サポートコンソーシアム(仮称)」を設立し、講師派遣や実習フィールドの提供、インターンシップの受け入れ、就職活動の支援などに協力していくことが説明されました。

